

On “Washing Feet” : The Nature of “Servant Leadership” (2)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2023-03-30 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 松村, 茂樹 メールアドレス: 所属:
URL	https://otsuma.repo.nii.ac.jp/records/7470

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



「洗足」について——「サーバントリーダーシップ」の本質(2)

松村茂樹

【キーワード】 サーバントリーダーシップ, 本質, 洗足, キリスト教的理解

はじめに

いわゆる「失われた30年」が過ぎた日本では、高度経済成長期に形成された「日本型システム」の見直しなど解決すべき課題に直面している。ところが「タテ社会」の日本では、リーダーのみが課題解決をしようとする場合が多く、皆で考えることができていない。

筆者は、前稿「日本における「サーバントリーダーシップ」導入——「タテ社会」を変える試み」⁽¹⁾で、日本の「タテ社会」を、「ヨコ」のフラットな関係において皆で考えることができる「ヨコ社会」に変革する必要性を論じ、その有力な方法として、「サーバントリーダーシップ」⁽²⁾の導入を提案した。

ただ、「サーバントリーダーシップ」は、キリスト教から出たものであり、キリスト教の理解なしにはその本質がわからない。そこで筆者は、拙稿「「サーバントリーダーシップ」の本質」⁽³⁾で、『新約聖書』「マタイの福音書」20章28節、「マルコの福音書」10章45節を出典とする「仕えられるよりも仕えなさい」ととりあげ、「サーバントリーダーシップ」をキリスト教的に理解しようとする米国の研究者の見解をもとに考察した。

本稿では、これと同様の趣旨で、『新約聖書』「ヨハネの福音書」13章5節に見える「洗足」⁽⁴⁾をとりあげたい。このリーダーであるイエスが弟子の足を洗うという箇所のキリスト教的理解により、「サーバントリーダーシップ」の本質を明らかにできればと思う。

1. 「洗足」の出典

この一節は、前述のように、『新約聖書』「ヨハネの福音書」13章5節に見える。文脈がわかるように、13章4-15節を引用しておこう（聖書 新改訳2017 ©2017 新日本聖書刊行会、以下、聖書の引用はこれによる）。

イエスは夕食の席から立ち上がって、上着を脱ぎ、手ぬぐいを取って腰にまとわれた。

それから、たらいに水を入れて、弟子たちの足を洗い、腰にまとっていた手ぬぐいでふき始められた。

こうして、イエスがシモン・ペテロのところに来られると、ペテロはイエスに言った。「主よ。あなたが私の足を洗ってくださるのですか。」

イエスは彼に答えられた。「わたしがしていることは、今は分からなくても、後で分かるよ

うになります。』

ペテロはイエスに言った。「決して私の足を洗わないでください。」イエスは答えられた。「わたしが洗わなければ、あなたはわたしと関係ないことになります。」

シモン・ペテロは言った。「主よ。足だけでなく、手も頭も洗ってください。」

イエスは彼に言われた。「水浴した者は、足以外は洗う必要がありません。全身きよいのです。あなたがたはきよいのですが、皆がきよいわけではありません。」

イエスのご自分を裏切る者を知っておられた。それで、「皆がきよいわけではない」と言われたのである。

イエスは、彼らの足を洗うと、上着を着て再び席に着き、彼らに言われた。「わたしがあなたがたに何をしたのか分かりますか。」

あなたがたはわたしを『先生』とか『主』とか呼んでいます。そう言うのは正しいことです。そのとおりなのですから。

主であり、師であるこのわたしが、あなたがたの足を洗ったのであれば、あなたがたもまた、互いに足を洗い合わねばなりません。

わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするようにと、あなたがたに模範を示したのです。

これは、イエス・キリストが十字架にかけられる前夜に12人の弟子とともにとった過越の祭りの食事、いわゆる「最後の晩餐」の一場面である。「洗足」は、『旧約聖書』「創世記」18章4節に、イスラエル民族の祖であるアブラム（後のアブラハム）が、二人の御使とともに訪ねてきた主に「水を少しばかり持って来させますから、足を洗って、この木の下でお休みください」という箇所に見える。『BIBLE navi』⁽⁵⁾は、「客の足を洗うことは、客が到着したときにおこなわれるしもべの仕事だった」とする。つまり主であり、師であるイエスが弟子の足を洗うことは、「しもべ」として奉仕する「サーバントリーダーシップ」の模範を示した箇所と考えられる。

ちなみに「イエスのご自分を裏切る者を知っておられた」とあるのは、12人の弟子の一人であるイスカリオテのユダが、自分を裏切って祭司長ら宗教指導者に引き渡そうとしているのを知っていたということである。ユダが裏切りを実行するために出てゆくのはこの後であるから、イエスはユダの足も洗っていたことになる。

以下、この箇所について、「サーバントリーダーシップ」をキリスト教的に理解しようとする著書の見解をみておきたい。

2. C. ジーン・ウィルクス『ジーザス・オン・リーダーシップ：サーバントリーダーシップに関する時を超えた知恵』(C. Gene Wilkes, *Jesus on Leadership: Timeless Wisdom on Servant Leadership*, 1998) (書名は暫定訳、以下同)⁽⁶⁾

“Servant leaders take up Jesus’ towel of servanthood to meet the needs of others” (based on John13:4-11). Jesus stepped down from his place at the Passover meal to set an example for his disciples. He took up the towel and washbasin of a slave to model his mission and show his love for those he recruited to carry out that mission after his ascension. We will discover the power of servant leadership as modeled by the Suffering Servant of God.

〔「サーバントリーダーは、イエスの奉仕のタオルを取って、他の人の必要を満たす」(ヨハネ 13:4-11 に基づく)。イエスは弟子たちの模範となるために、過越の食事の席から降りられ

ました。イエスは、ご自分の使命の模範となり、昇天後にその使命を遂行するために召された人々への愛を示すために、奴隷のタオルと洗面器を手に取られました。私たちは、神の苦難のしもべが模範を示したサーバントリーダーシップの力を発見することができるでしょう。]

この著は、表紙カバーに「洗足」の場面を描いた図版を用いており、「洗足」を「サーバントリーダーシップ」の最たる象徴と捉えていることがわかる。著者のウィルクスは、「洗足」の目的を「昇天後にその使命を遂行するために召された人々への愛を示すため」としている。つまり、イエスが十字架にかけられ「神の苦難のしもべ」となり、墓に葬られ、3日後に復活し、40日目に天に昇った後、この世での使命を遂行する弟子つまり使徒への愛を示す行為とするのである。

3. ケネス・H・ブランチャード『サーバントリーダー』(Kenneth H. Blanchard. *The Servant Leader*, 2003)⁽⁷⁾

Jesus is the master of the art of living and leading as an act of service. He loves it when you call on Him. He is only a prayer away as your leadership guide and inspiration. You're not called to lead by yourself.

〔イエスは、奉仕をおこなう者として生きること、そして導くことの師です。あなたが主を呼び求めることを、主は喜ばれます。イエスは、あなたのリーダーシップの指針となり、インスピレーションとなるようひたすら祈っておられます。あなたは、自分ひとりでリードするよう求められているではありません。〕

著者のブランチャードは、このように述べた後、「ヨハネの福音書」13章3-5節および12-17節つまり「洗足」の箇所を引用している。ブランチャードのいう「サーバントリーダーシップ」とは、「自分ひとりでリードする」のではなく、「師」たるイエスが「指針」を示してくれるリーダーシップなのである。このことの論証として、ブランチャードは「洗足」の箇所をあげているのである。

4. デール・ローチ『イエスのサーバントリーダーシップスタイル：リーダーシップ開発のための聖書的戦略』(Dale Roach. *The Servant-Leadership Style of Jesus: A Biblical Strategy for Leadership Development*, 2016)⁽⁸⁾

Jesus' challenge to His disciples was not about the superficiality of washing feet. It was the call to serve others with a Christ-like attitude. Jesus was setting up His followers for God's heart for ministry: seeking the benefit of others—an instruction and challenge for believers throughout all generations.

〔イエスの弟子たちへのチャレンジは、足を洗うという表面的なことではありませんでした。キリストのような態度で人々に仕えなさいということです。イエスは弟子たちに、「他者の利益を追求する」という神の奉仕の心を身につけさせようとされたのであり、これはいつの時代の信仰者にとっても教えでありチャレンジなのです。〕

著者のローチは、イエスの「洗足」は弟子たちへの「チャレンジ」であったという。また、「サーバントリーダーシップ」の精神である「神の奉仕の心」は「他者の利益を追求する」ことであるという。この「他者の利益を追求する」ことは言うは易くおこなうは難しであり、イエスはこれを弟

子に身につけさせるため、「洗足」をおこなったとするのである。

5. スティーブン・クラウザー『聖書のサーバント・リーダーシップ：現代の文脈に合わせたリーダーシップの探究』(Steven Crowther, *Biblical Servant Leadership: An Exploration of Leadership for the Contemporary Context*, 2018)⁽⁹⁾

The message of Jesus is clearly about showing the disciples the way to lead by serving. He mentioned that He indeed was their Master and teacher yet He washed their feet as an example for them. It was important to Jesus that the disciples saw and understood this truth; He even took special time to explain it to Peter with more details. It was also important that the later readers of Scripture saw that this was done in the context of the betrayal of Judas. Serving is not contingent on worthiness.

Servant leadership is seen here in this text as Jesus is motivated by great love to serve those He is leading, even those that are less than worthy of this love or leadership. This serving is washing their feet that is truly a job for servants. The disciples did not understand however; Jesus took extra measures for them to understand. He was the Master and Lord and their teacher; yet, He was their servant and this is an example that they are to follow in their leadership of others. This is not a theology of foot washing, but it is using this physical, clear example to help them develop a theology of leadership of servant leadership; now blessed are you if you do this and lead as a servant. This is a clear example of Jesus teaching and modeling servant leadership that reinforces the concepts as found in the contemporary model of servant leadership.

[イエスのメッセージは、明らかに弟子たちに、仕えることによってリードする方法を示すものです。イエスは、自分が弟子たちの主であり、師でありながら、弟子たちの模範として足を洗ったことを述べられました。イエスにとって、弟子たちがこの真理を見て理解することが重要であり、ペテロに特別な時間を割いて詳しく説明されました。また、このことがユダの裏切りという状況の中でおこなわれたことを、後の聖書の読者が理解することも重要でした。仕えることは、価値があるかどうかにかかわらず左右されないのです。

このテキストでは、イエスが大きな愛によって、たとえその愛やリーダーシップにふさわしくない者であっても、自分が導いている者に仕えようとする、サーバントリーダーシップが見られるのです。この奉仕は彼らの足を洗うことであり、まさにしもべの仕事です。弟子たちはどのようにしたらいいか理解できなかったので、イエスは彼らに理解させるために特別な手段を講じられたのです。イエスは師であり、主であり、彼らの教師でありましたが、にもかかわらず、彼は彼らのしもべとなり、彼らが他の人を指導する際に従うべき模範を示されたのです。これは足を洗う神学というわけではなく、この身体を使った明確な例を用いて、サーバントリーダーシップというリーダーシップの神学を発展させる手助けをしており、現在あなたがたがこれをおこない、しもべとしてリードするならば、あなたがたは幸いです。これは、イエスがサーバントリーダーシップを教え、モデル化した明確な例であり、現代のサーバントリーダーシップのモデル構築の概念を強化してくれます。]

著者のクラウザーは、イエスの「洗足」の目的を「弟子たちがこの真理を見て理解すること」であったとする。「ヨハネの福音書」13章20節でイエスは、「わたしが遣わす者を受け入れる者は、

わたしを受け入れるのです。そして、わたしを受け入れる者は、わたしを遣わされた方を受け入れるのです」と述べている。「わたしが遣わす者」とは12人の弟子たちであり、自身が昇天した後、この世での伝道継続を託す弟子たちに是非とも「真理」を理解させねばならなかった。そのために「洗足」をおこなったとするのである。

また、「ベテロに特別な時間を割いて詳しく説明されました」とあるのは、「ヨハネの福音書」13章6-10節に見える「主よ、あなたが私の足を洗ってくださるのですか。」「わたしがしていることは、今は分からなくても、後で分かるようになります。」「決して私の足を洗わないでください。」「わたしがあなたを洗わなければ、あなたはわたしと関係ないこととなります。」「主よ、足だけでなく、手も頭も洗ってください。」「水浴した者は、足以外は洗う必要がありません。全身がきよいのです。あなたがたはきよいのですが、皆がきよいわけではありません。」というやりとりをいう。ベテロは一番弟子ともいべき人である。イエスは彼に「詳しく説明」したのであるが、この時点ではまだ「真理」を完全には理解していない。

さらに、クラウザーは、イエスが自らを裏切ったユダにも「洗足」をおこない、しもべとなって仕えたことを指摘し、「サーバントリーダーシップ」とはこのような「大きな愛」によるリーダーシップであるとする。そして、「洗足」はイエスの「サーバントリーダーシップ」の「明確な例」であり、「現代のサーバントリーダーシップのモデル構築の概念を強化」してくれるという。

6. J・オズワルド・サンダース『スピリチュアル・リーダーシップ：すべての信者のための卓越した原則』（J. Oswald Sanders, *Spiritual Leadership: Principles of Excellence for Every Believer*, 1967）⁽¹⁰⁾

If the disciples figured to learn about leadership on the fast track and with appropriate perks and bonuses, Jesus soon disillusioned them. What a shock it was to discover that greatness comes through servanthood, and leadership through becoming a slave of all.

Only once in all the recorded words of Jesus did our Lord announce that He had provided an “example” for the disciples, and that was when He washed their feet (John 13: 15). Only once in the rest of the New Testament does a writer offer an “example” (1 Peter 2: 21), and that is an example of suffering. Serving and suffering are paired in the teaching and life of our Lord. One does not come without the other. And what servant is greater than the Lord?

〔もし弟子たちが、リーダーシップについて手っ取り早く、ふさわしい役得と特典によって学ぼうと考えたなら、イエスはすぐに彼らを幻滅させたでしょう。偉大さは奉仕の精神によってもたらされ、リーダーシップはすべての人のしもべになることによってもたらされることを発見したときの衝撃は、いかばかりであったでしょう。〕

記録されているイエスの言葉の中で、主が弟子たちに「模範」を示したのはただ一度、弟子たちの足を洗ったときだけです（ヨハネ13：15）。新約聖書の残りの部分では、書き手が「模範」を記したのは一度だけで、それは苦しみの模範です（第1ペテロ2：21）。主の教えと生涯の中で、仕えることと苦しむことは対になっています。一方は他方なしには成り立たないのです。そして、主よりも偉大なしもべがいるのでしょうか？〕

ここでサンダースは、イエスの弟子たちでさえも理解していなかった「サーバントリーダーシップ」の本質を教えてくれている。「リーダーシップはすべての人のしもべになることによってもた

らされる」というこの世の価値観と逆転するこの概念は、イエスに教えてもらわないとわからない。つまり、キリスト教的理解が必要なのである。

そして、サンダースは、『新約聖書』には二つの「模範」があり、一つは「洗足」による「仕えること」の模範、もう一つは「苦しむこと」の模範であるとする。その上で、「仕えること」と「苦しむこと」は対になっており、一方は他方なしには成り立たないとするのである。

むすびにかえて

本稿では、「サーバントリーダーシップ」の本質を、『新約聖書』『ヨハネの福音書』13章5節に見える「洗足」について、「サーバントリーダーシップ」をキリスト教的に理解しようとする米国の研究者の見解をもとに考察し、以下のことを明らかにできた。

- ・「洗足」は、「サーバントリーダーシップ」の最たる象徴である。
- ・「サーバントリーダーシップ」は、自分ひとりでリードするのではなく、師たるイエスが指針を示してくれるリーダーシップである。
- ・「洗足」は、他者の利益を追求することを弟子に身につけさせるためにおこなわれた。
- ・「洗足」は、この世での伝道を託す弟子たちに真理を理解させるためにおこなわれた。
- ・「サーバントリーダーシップ」は、ふさわしくない者にも施される、大きな愛によるリーダーシップである。
- ・「洗足」は、現代のサーバントリーダーシップのモデル構築の概念を強化してくれる。
- ・『新約聖書』には二つの「模範」があり、一つは「洗足」による「仕えること」の模範、もう一つは「苦しむこと」の模範である。
- ・「仕えること」と「苦しむこと」は対になっており、一方は他方なしには成り立たない。
- ・「サーバントリーダーシップ」は、すべての人のしもべになることによってもたらされる。

「サーバントリーダーシップ」の導入を提案するにあたり、本質をそなえることは極めて重要である。「サーバントリーダーシップ」がキリスト教から出たものである以上、やはりその本質はキリスト教にあるといわねばならない。今後も、キリスト教的理解により、「サーバントリーダーシップ」の本質探究を続けたい。

《注》

- (1) 松村茂樹「日本における「サーバントリーダーシップ」導入——「タテ社会」を変える試み」『コミュニケーション文化論集』第20号 2022.3.18 大妻女子大学コミュニケーション文化学会
- (2) 「サーバントリーダーシップ」は、米国のロバート・K・グリーンリーフ（1904-1990）により1969年に提唱され、1977年に同名著書が、2002年に25周年記念版（Robert K. Greenleaf, *Servant Leadership: A Journey Into the Nature of Legitimate Power and Greatness*, 2002）が出版された。日本でも25周年記念版の邦訳である金井壽宏監訳 金井真弓訳『サーバントリーダーシップ』2008.12.29 英治出版が出版されている。
- (3) 松村茂樹「「サーバントリーダーシップ」の本質」『人間生活文化研究』No. 33 2023.1.26 大妻女子大学人間生活文化研究所
- (4) 「洗足」を校名とする学校法人洗足学園は、『学校法人洗足学園』「校名の由来」<https://www.senzoku.jp/new/origin.html> 2022/11/30（最終閲覧日、以下同）で、以下のように記している。「洗足

「洗足」について——「サーバントリーダーシップ」の本質（2）

学園の創設者前田若尾先生が、今日の学園の母体となる私塾を、旧平塚村（現在の東京都品川区）に創設したのは大正13年（1924年）のことです。その2年後現在の東京都目黒区洗足に移り、校名も洗足高等女学校と改めました。「洗足」という学園名は、地名を冠した命名のように思われますが、そうではありません。洗足学園はミッションスクールではありませんが、前田若尾先生は敬虔（けいけん）なクリスチャンであり、「洗足」という命名にもそれが投影していると考えられるのです。」

- (5) いのちのこば社出版部翻訳『聖書 新改訳2017 解説・適用付 BIBLE navi』2021.12.1 いのちのこば社
- (6) 著者のC・ジーン・ウィルクスは、同書の著者紹介によると、「ベイラー大学卒業、ギリシャ語と宗教で学士号取得。また、サウスウェスタン・バプティスト神学校でMDivとPhDを取得した。2013年7月、テキサス州プラノにあるレガシー教会の主任牧師を退任。現在、ダラス・バプティスト大学の非常勤講師として、修士・博士課程で聖書のサーバントリーダーシップについて教えている」とある。
- (7) 著者のケネス・H・ブランチャードは、『The Ken Blanchard Companies』「Ken Blanchard」<https://www.kenblanchard.com/About-Us/Meet-the-Team/Ken-Blanchard> 2022/10/15によると、「ケン・ブランチャード博士は、講演者、著者、コンサルタントとして著名であるほか、母校であるコーネル大学の名誉理事、サンディエゴ大学のエグゼクティブ・リーダーシップ科学プログラムの修士課程で学生を指導している。ニュージャージー州生まれ、ニューヨーク州育ちのケンは、コルゲート大学で修士号を、コーネル大学で学士号と博士号を取得している」とある。
- (8) 著者のデール・ローチは、同書の著者紹介によると、「デール・ローチは、30年以上にわたってリーダーシップの育成に携わってきました。イエスのサーバントリーダーシップの教えをもとにリーダーを育成することに強みを見出しています。デールは、ガードナー・ウェッブ大学、南東バプテスト神学校、南バプテスト神学校を卒業しています」とある。
- (9) 著者のスティーブン・クラウザーは、同書の著者紹介によると、「米国グレース神学校学長。コロンビア、ベネズエラ、ブラジルで指導者を養成する宣教活動に従事。研究テーマは、組織的リーダーシップ。また、特にラテンアメリカのカレッジの認証評価やリーダーシップ開発に関するコンサルティングもおこなっている」とある。
- (10) 著者のJ・オスワルド・サンダースは、同書の著者紹介によると、「J・オスワルド・サンダース（1902-1992）は、70年近くにわたってクリスチャン・リーダーとして活躍し、『比類なきキリスト』『スピリチュアル的弟子』『スピリチュアル・リーダーシップ』『スピリチュアル的成熟』を含むクリスチャン生活に関する40以上の著書を執筆した。母国ニュージーランドで有望な法律事務所を辞し、ニュージーランド聖書学院の講師および管理者として奉仕した。その後、サンダース博士は、中国内陸部宣教会（現在の海外宣教師会）の総監督となり、東アジア全域で多くの新しい宣教プロジェクト開始に貢献した」とある。

本研究は、令和4年度大妻女子大学戦略的個人研究費「サーバントリーダーシップの本質と大学教育への導入」（課題番号：N2215 研究代表者：松村茂樹）による成果の一部です。